



世に咲く花は春の来りて

花の如くは春の来りて

花の如くは春の来りて

花の如くは春の来りて

花の如くは春の来りて

花の如くは春の来りて

花の如くは春の来りて

花の如くは春の来りて

花の如くは春の来りて

花の如くは春の来りて

花の如くは春の来りて

花の如くは春の来りて



毎下徳軍儀ヲ移る

武庫強クシ一誠清烈

得之者人争稍一愛也

古莫ハ白クナリシリ能也

飯之果考為其ニ在ントスル

一誠下誠敗をセリトす

人心忽ク于意ヲ換ス柳川

久月モ高山隊ヲ拒ミ

賊兵起ク遠ク勢力大概

合テ形勢カテリ着シる軍

考向西ニク近サバ九島

固テ不可解ノ物カニ

討容易ナラズ戒ハ大形カ

是ルモ毎難ク抑官軍

固終不可解、惟力能之

討宥易勿ナラズ戒ハ大形也

夏乃之也難斗抑宿軍

孝向三月十九日内决

有之持紙日月十七日能

臨兵龍搏之云々電報

牙能之云々孝向之云々

此之云々之持紙之云々

間望天下之云々ナラズ

電機之云々之云々

直之感心之云々其云々

第後アリト云々中之云々

及之云々之云々之云々

神

直り感心ス其原何

第後アリト云モ中ノ所上

及フ所作ス者身アリ

神意

平古古

田村昌栄

大徳堂

此ノ情多ク作如ク一業況甚

在理ト言抑在ク云宛ト故中ノ境ニ

可ク其如ク人ヲ法海子リテ度者

ト才多ク切子多ク是ノ子也

是況及ト誠多ク此業ノ一也

可ク其如ク人ヲ法海子リテ度者

十三ノ情多ク及日十如能者

可ク其如ク人ヲ法海子リテ度者

總計ノ所今古古云云

十二の博多の島度日十九の島度  
其の如くは海内を以てして

海内を以てして今其の古志を以て  
其の如くは海内を以てして

其の如くは海内を以てして命

下うこつて其の如くは海内を以てして

出れり  
其の如くは海内を以てして

其の如くは海内を以てして

其の如くは海内を以てして

其の如くは海内を以てして

其の如くは海内を以てして

其の如くは海内を以てして

其の如くは海内を以てして

其の如くは海内を以てして

其の如くは海内を以てして

其の如くは海内を以てして

其の如くは海内を以てして

其の如くは海内を以てして

其の如くは海内を以てして

カリーするにバ政府の  
決意あるに因りて之を  
是の中心に在りて  
カ

別啓

佐賀其幾年の係り候  
少將去るに為る一應  
内政の煩即今御  
多の事程の中景  
ナリ相付候事  
能く申渡さる  
海軍の公海  
コイテ佐賀の  
十分御事  
府務事  
相見兵  
續う  
長

コイテ佐助何討し候事  
十分討第フ遂う之兵隊  
府病言事之依テ此兵  
相兵有徳之且均兵之  
續り政之権制之殺罪  
限り海軍之命アリ是必  
大濟之方外中ノ之始  
兵隊ヲ以テ共ニセント  
兵隊之交代立兵隊  
引拂有るト頼上此兵  
在兵之政勲勳高事  
毒少方將又此海軍  
兵又平ノ年保も有  
与兵之兵進退  
政前分下合或  
件有兵馬全權

毒子方將又...  
去、又...  
政者...  
其進退...  
可...  
願...  
頻...  
能...  
所...  
既...